



湖北

次代を担う子どもたちに地域と人を結ぶ鉄道、駅に親しんでもらおうと、鉄道利用促進フォトコンクール「湖北の車窓から」の特賞6点が決まった。

長浜、米原両市と県でつくる「鉄道を活かした湖北地域振興協議会」が発表し、1月20日に長浜市役所で表彰式が行われた。

両市の小学校に在籍する児童らが対象で、52点の応募があった。特賞のうち、協議会

会長賞は長浜市立塩津小3年、狩野叡之丞さんの『おまつり、行くよー!』が選ばれた。

2月20日までの予定で、特賞と入選の計30点を長浜、米原両駅で展示中(長浜駅では2階改札出口の大型モニター1に掲示)。坂田、田村、虎姫、河毛、高月、木ノ本、余呉、近江塩津、永原各駅でも特賞6点を展示している。



協議会長を受賞した作品
「『おまつり、行くよー!』」

長浜

鉄道フォトコンで特賞6点
「湖北の車窓から」

「湖北の野鳥図鑑」改訂版刊行

341種類を紹介

湖北野鳥センター(長浜市湖北町今西)は、昨秋発行された日本鳥類目録改訂第8版に対応する「改訂版 湖北の野鳥図鑑」を刊行した。学名表記や掲載順などが第8版の新分類に準拠している。

改訂版では、初版が発行された2020年冬以降に湖北地域で見つかったハチジョウツグミ、シベリアアオジなど11種類の野鳥を新規掲載。計341種類の野鳥を紹介している。更に、野鳥だけでなく、



【長浜通信部・長谷川隆広】

湖東

彦根

彦根城のハクチョウ譲渡
国立京都国際会館にお引越



国宝・彦根城内(彦根市金亀町)で飼っているハクチョウ

に、雄1羽だけとなっていた。京都に引越しても元気に泳

ウ3羽が、昨年ウ3羽が、昨年から今年にかけて国立京都国際会館(京都市左京区)に譲渡された。彦根市文化財課によると、同館は半世紀にわたりハクチョウを飼育してきたが、2023年に雌1羽が死

ぐ画像が、このほど彦根市に届けられた。写真。

過去にも1993年11月に彦根城から同館に2羽が譲渡された。そのお礼で2003年12月には同館が彦根城に2羽を寄贈している。また同じ国宝の天守閣を持つ縁で、松本城(長野県松本市)に1つがいが増られたこともある。

現在、彦根城には内堀に2羽中堀に4羽がすんでいる。

【彦根通信部・伊藤信司】

かるたで風流なしゃれ

中島さん20年前から新春に



大判の札で陽気に楽しんだかるた大会
中老人福祉センターHPより

もうやめて5秒おきしゃれ病気よー。そんな自作の「風流しゃれかるた」を使い、彦根市中藪町の中島健造さん(82)が1月24日、中老人福

社センター(同市開出今町)でかるた大会を開いた。20年ほど前から市内各地で新春に催している。

今回は48枚の絵札を縦18枚、横13枚まで拡大。約20人が参加し、ユーモラスな文句が読み上げられるたび、笑いながら取り合っていた。2回対戦し、取った札の数で1〜3位が決定。同センターから賞品が贈られた。

また大会に続き、中島さんがこんな新しいしゃれも披露した。「物価高で四苦八苦の宿泊費」「忌まわしい思い過ぎ去り今は幸せ」「伝えたいえない知れない僕のしゃれ」

【彦根通信部・伊藤信司】